

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402170		
法人名	株式会社 ケアサポート慶		
事業所名	グループホーム よろこび		
所在地	福島県いわき市金山町朝日台132番地 (電話)0246-62-0086		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H20.12.5	評価確定日	H21.1.27

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 2月19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤15人, 非常勤 4人, 常勤換算11.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83.4歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 至誠会 幸島病院 塩齒科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の居室は全て日当たりが良く配置されており、明るく暖かい。リビングと食堂は仕切りが無く、台所も一体になっているため、利用者も調理に参加しやすくなっている。室内では子犬を飼っており、散歩の時の楽しみや利用者の癒しともなっている。利用者は、希望すれば毎日買い物や散歩など外に出かけることができるようになっている。自由かつ開放的な雰囲気の中で、利用者は自分らしい生活を送ることができるようにしている。また、計画的に職員研修を行うとともに資格取得のために事業所が職員に助成金支給し支援しており、職員の資質向上に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である「利用者個人ごとの報告を活用した職員の異動報告や運営に対する家族の意見の把握」については、改善に向けて取り組んでいるところである。「災害対策についての地域消防団や住民の協体制作り」については、改善されていないため早急に取組む必要がある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価を記入し、協議の上管理者がまとめた。自己評価を実際に職員各自が記入すること、さらに勉強会を実施することにより職員各自がそれぞれの自己評価の意義と提供するサービス内容について理解することが出来た。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議では、運営状況の報告が主であるが、サービス提供上の問題などについても報告し、質疑応答があり活発に意見交換がなされている。会議の議事録は職員に回覧するとともに、内容によっては職員に直接伝達し、利用者のサービス向上に活かすようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月利用者個人ごとに生活状況報告書を作成し送付している。意見箱を設置している他、家族来所時には積極的に声を掛け、相談ののったり意見交換をするようにしている。又、年3回実施するイベントには家族に参加して頂き、家族間の交流や意見交換を通して家族の声を把握し、運営に反映するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入っており、地域の運動会、盆踊り、文化祭、あそびり教室、清掃活動に参加しながら地域住民と交流している。又、地域の保育園の行事見学にも出かけている。利用者は、散歩を通じ地域住民と日常的な交流が行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれ、地域に信頼される企業を目指し、事業の開始時に管理者が経営理念を、職員全体で介護理念を決め、地域と共に高齢者ケアを実践する独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に必ず理念を伝える他、勉強会にて確認している。年度初めには職員一人ひとり理念に基づいた個人の目標を立て、ネームプレートの裏に書き込むなどして意識付けをするようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の運動会、盆踊り、文化祭、あそびり教室、清掃活動などに参加し、地域住民と交流している。また、地域の保育園行事の際に訪問し交流している。地域にお願いばかりするのではなく、地域の一員として交流ができるよう常に配慮している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を記入し勉強会で話し合う機会を設け、管理者がまとめた。また、外部評価の結果についても職員に伝え、できることから改善するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、地域住民代表、老人会代表、民生児童委員、地区の保育園、行政担当者、利用者及び家族代表などからなり、会議では状況報告と質疑応答など活発な意見が出され、利用者へのサービス向上に活かしている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月利用者ごとに生活状況報告書を作成し、職員の異動等も含めて家族へ報告している。また、健康面での変化があれば、電話で家族へ連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの玄関に『ご意見箱』を設置する他、家族面会時に利用者の生活状況報告を行い、できるだけ意見を言ってもらえるよう留意している。年3回のホームのイベントに家族に参加していただき、その機会に家族間の交流や意見交換が出来るようにし、意見を運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を築くように、各ユニットの職員を固定している。又、毎月合同で行なう行事があるため、他のユニットの利用者の状況も分かるように毎月の生活状況報告を回覧するなどの工夫している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成には積極的に取組んでおり、新人職員及び現任職員の経験年数や希望に応じ年間研修計画を立て、計画的に法人内外の研修に参加させている。さらに、資格取得を支援するために介護福祉士や介護支援専門員の受験の際には助成金を出している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び市のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会などに参加しながら同業者と交流している。職員は最低年1回外部研修に参加できるようにしており、その際の交流を通じて利用者へのサービス向上に活かすようにしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に教わりながら料理や野菜作り、花壇の手入れを一緒に行っている。さらに、犬の散歩や買い物職員と利用者が協力して行いながら、共に過ごし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症介護研究・研修東京センター方式を取り入れ、利用者本人に確認しながら暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、意思表示が困難な利用者についても、会話や表情から本人の意向を把握するよう努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回定期的に介護計画検討のための会議を開催し、把握した本人や家族の思いや意向をもとに職員間で話し合いながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状態に変化があったときには、家族と相談し意向を確認するとともに、職員間で話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行なっている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が提携している病院以外に、入居以前からのかかりつけ医にも受診できるようにしている。家族が受診の付き添いをできない場合は、事業所が受診の付き添いをし、受診結果を家族へ報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期介護についての指針は作成しているが、その指針をもとに家族やかかりつけ医と共通認識がなされていない。	○	利用者の重度化や終末期に向けた介護に関する職員間の共通認識が図られるよう学習会を行ってほしい。さらに、作成した指針をもとに、本人や家族、かかりつけ医と話し合い、関係者全員で重度化や終末期に向けた方針を共有してほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員入社時に個人情報保護について説明し、その後も利用者の記録簿は随時注意して取り扱うようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、利用者の希望に応じて買い物やドライブ、散歩などを行っており、できるだけ利用者のペースを大切にしながら、日々の希望にそった支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3日に1回は利用者の好みの献立を取り入れた食事に行っている。また、利用者と職員と一緒に野菜畑からの収穫や調理、配膳及び下膳を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の好みによる『いつもの入浴時間』に入浴できるよう支援している。また、気のあう者同士で入浴したいという利用者もあり、二人で入浴することも可能にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	食事作りや畑作業など、利用者の生活歴をもとにして本人が活躍できる場面を作っている。又、行事などは利用者と相談しながら内容を決め、楽しみや気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎日、翌日の食材を利用者と職員と一緒に買い物に出かけることにし、利用者一人ひとりが出来る限り外出する機会を増やしている。また、一人ひとりの希望にそって、ドライブや散歩もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアについて理解しており、玄関にはセンサーを設置し、日中は鍵をかけずに自由に入出入りできるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回避難訓練を実施しているが、地域の方々への協力の呼びかけは行っていない。また、非常時の対策として警備会社と提携している。	○	地域の消防団にホームを見学してもらい、ホームへの理解をすすめて、災害時に協力していただけるようにしてほしい。また、避難訓練時には地域住民の参加を働きかけ、利用者の安全確保に努めて欲しい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事及び水分摂取量の記録をし、必要に応じて水分補給も行っている。また、1カ月に2回体重測定も実施しており、体重が増加する利用者には運動を勧めたり、カロリーの調整をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節ごとに手作りの絵を飾ったり、年中行事に合わせて菖蒲湯や柚子湯を用意して、居心地のよい共用空間づくりを工夫している。また、調理する香りや音などの生活感が感じられるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や使い慣れた家具を持ち込んでおり、家族への働きかけも行いながら、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名

記入担当者名 根本 恵

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。